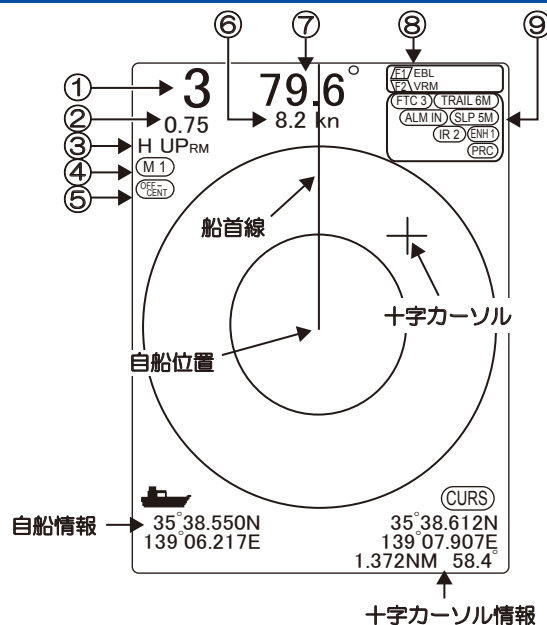


KODEN MDC-2000 シリーズ 操作早見表

- ①レンジ
 - ②固定マーカー間隔
 - ③表示モード
 - H UP: ヘッドアップ
 - N UP: ノースアップ
 - C UP: コースアップ
 - WPT UP: 目的地アップ
 - RM: 相対運動 TM: 真運動
 - ④パルス幅
 - 短 長
 - SP < M1 < M2 < L1 < L2
 - ⑤オフセンター状態
 - ⑥船速
 - ⑦船首方位
 - ⑧【F1】 / 【F2】 キーへの登録機能
 - ⑨画面設定情報
 - (FTC 3) FTC設定値
 - (TRAIL 6M) 航跡時間
 - (ALM IN) 警報モード
 - (SLP 5M) スリープ設定
 - (IR 2) 干渉除去設定
 - (ENH 1) 物標拡大設定
 - (PRC) 信号処理: OFF/ON
- 設定「OFF」のときは表示されません。



登録している機能を実行する(【F1】【F2】キー)



登録されている機能により操作が異なります。
画面上の操作ガイドを見ながら操作してください。



押す

【F1】 / 【F2】 に登録できる機能

【FTC】、【表示モード】、【画面選択】、【オフセンター】、
【物標拡大】、【航跡時間】、【EBL】、【VRM】、
【画面色調】、【平行カーソル】、【警報モード】、【手動捕捉】、
【消去】、【POB】、【ターゲット】、【他船情報】、
【パルス幅】、【信号処理】

【F1】 / 【F2】 キーを長押しすると、各キーに登録する機能を選択できます。

レンジを変更する(【-レンジ+】キー)

- 【+】を押す → 観測範囲が広がります (映像は縮小します)
- 【-】を押す → 観測範囲が狭くなります (映像は拡大します)

STCを調整する(【STC】つまみ)



まわす

右にまわすと海面反射抑制効果が強くなります。
左にまわすと海面反射抑制効果が弱くなります。

※PPI/PPI時には、上下画面同時に変わります。

CCDカメラ映像を表示する(【STC】つまみ)



押す

CCDカメラ映像が表示されます。
※【STC】つまみを押すごとに、全画面と半画面が切り替わります。

CCDカメラ映像を消すには、他のキーを押します。

送信を開始する(【準備/送信】キー)



押す

送信を開始して映像が表示されます。

送信を停止するには、再度、【準備/送信】キーを押します。

輝度を調整する(【輝度】キー)



押す

画面輝度調整
10
パネル輝度調整
10

押す

押す

※【輝度】キーを押すごとに切り替わります。

船首線を消す(【決定】キー)



長押し

押し続けている間、船首線が消えます。

離すと再表示され、十字カーソルが自船位置に戻ります。

2点間の距離・方位の測定(【決定】キー)



押す



押す



押す

画面右下に、基点から十字カーソルまでの距離・方位を表示します。

カーソル移動 基点確定

【メニュー】キーを押すと終了します。

メニューを開く(【メニュー】キー)



押す

メニュー画面を表示します。
メニューを閉じるには、再度【メニュー】キーを押します。
(メニューについては、裏面をご覧ください)

感度を調整する(【感度】つまみ)



まわす

右にまわすと感度が高くなります。
左にまわすと感度が低くなります。

PPI/PPI時の下画面のレンジ/感度を変更する(【感度】つまみ)



押す

サブ画面レンジ
5.0
サブ画面感度
5.0



押す



押す

※【感度】つまみを押すごとに切り替わります。

電源を入れる/切る(【輝度】キー)

電源を入れる



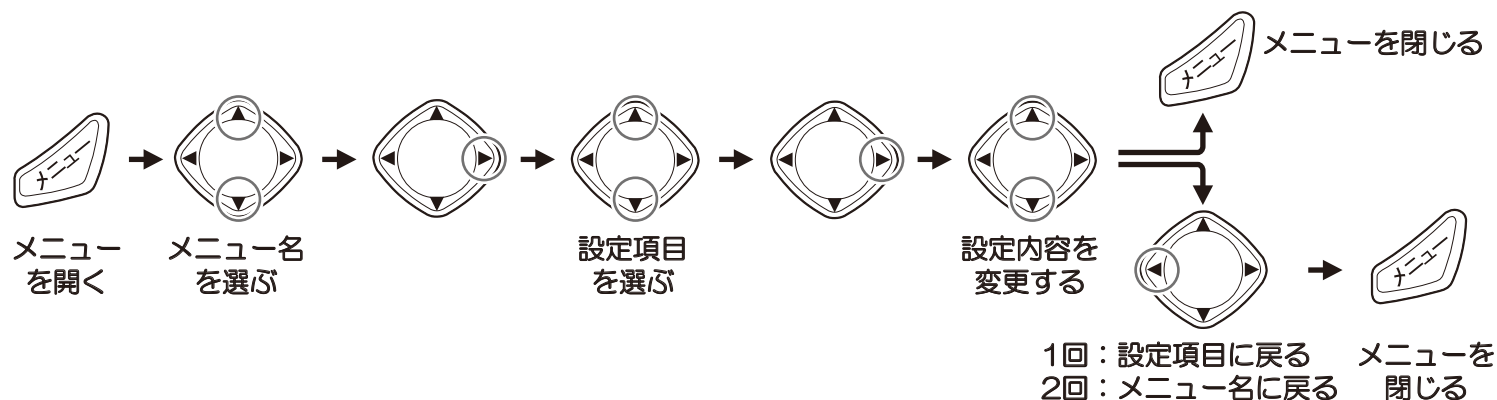
押す

電源を切る



3秒長押し

● メニューの操作方法



● 映像設定メニューの機能

映像	FTC	3	①
航跡表示	表示モード	H UP RM	②
警報	画面選択	PPI	③
AIS	オフセンター	OFF	④
ATA	物標拡大	1	⑤
次へ	信号処理	OFF	⑥
	パルス幅	分解能優先	⑦

- ①FTCの設定を変更します。
数値が大きいほど強く効きます。
- ②表示モードを変更します。
[H UP RM][N UP RM][N UP TM][C UP RM][C UP TM][WPT UP RM]の中から選択します。
- ③画面構成を設定します。
- ④画面中心位置を設定します。
指定した位置が映像の中心（自船位置）になります。
- ⑤物標を拡大して表示します。
数値が大きいほど大きく拡大されます。
- ⑥映像を信号処理して不安定な物標を安定させます。
- ⑦パルス幅を変更します。
[分解能優先]：物標が密集している場所に適しています。
[感度優先]：小さな物標を検知するのに適しています。

● 航跡設定メニューの機能

映像	航跡モード	真	①
航跡表示	航跡時間	3分	②
警報	航跡形状	標準	③
AIS	航跡レベル	7	④
ATA			
次へ			

- ①航跡の表示方法を設定します。
[相対]：自船に対して相対的な物標位置の変化分を航跡として表示します。
[真]：自船の動向とは無関係に、移動している物標の進路と速度を示す航跡を表示します。
※真航跡を行うには、方位、船速、緯度経度データを入力する必要があります。
- ②航跡を残す時間を設定します。
- ③航跡の形状を設定します。
[標準]：時間が経過しても航跡の形状は変わりません。
[減衰]：時間の経過とともに航跡は細くなっていきます。
- ④航跡の対象となる信号レベルを設定します。
数値を大きくすると、反応の強い物標のみが表示されます。

● 表示設定メニューの機能

映像	EBL	ON	①
航跡表示	VRM	ON	②
警報	画面色調	標準	③
AIS	カーソル形状	標準	④
ATA	平行カーソル	OFF	⑤
次へ	平行カーソル本数	7	⑥
	方位モード	相対	⑦
	ベクトル	6分	⑧
	ベクトルモード	真	⑨

- ①自船から物標までの方位を測定します。
[ON]を選択し、[▶]キーを押した後、[◀] [▶]キーで方位を変更します。
- ②自船から物標までの距離を測定します。
[ON]を選択し、[▶]キーを押した後、[▲] [▼]キーで距離を変更します。
- ③画面全体の色調を変更します。
- ④十字カーソルの形状を設定します。
- ⑤自船を基準とした平行な直線を表示します。
- ⑥平行カーソルの本数を設定します。
- ⑦十字カーソル、EBLの方位表示モードを変更します。
[相対]：船首方位が0°となります。
[真]：真北が0°となります。
- ⑧自船および他船の方位、速度を示すベクトル線を表示します。
- ⑨ベクトル線の示すモード（真/相対）を設定します。